

電気のふるさと



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり◎ ～和歌山県北山村の地域活性化事業～
小さな「全国唯一の飛び地の村」のユニークな地域づくり

- わがまち自慢 ～市長室から～
静岡県御前崎市
- 電源地域情報ひろば
平成25年10～12月のイベントカレンダー
- 電源地域振興トピックス
町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

わがまち自慢

～市長室から～

おまえざき
静岡県御前崎市
いしはらしげお
石原 茂雄 市長



平成16年4月、旧浜岡町と旧御前崎町の合併により御前崎市が誕生し、来年10周年を迎えます。市民の皆さんのご協力により、市民と行政が一体となった大変良い、合併によるまちづくりができたと感じています。

この10年間で、時代背景や市民ニーズの変化により新たな行政需要が生まれてきました。

その一つが耕作放棄地問題です。市では沿岸部を中心に耕作放棄地が広がり、これを食い止めることが課題となっています。こうした耕作放棄地をなくするという目的で、国道150号沿いの旧静岡県農業試験場の跡地に、平成26年4月開設予定の農業振興拠点施設を建設しています。

この農業振興拠点施設は、農産物の直売所や加工施設、実証圃場、先端農業ハウス、展示温室などに加え、農業体験が可能な市民農園や、「道の駅」も兼ね備えた施設です。ここでは、これから農業を始める人たちに栽培方法を教えるとともに、周辺の農家で栽培された野菜を販売することなどにより、耕作面積を拡大し、耕作放棄地の解消を目指していくものであります。

もう一つの需要としては、御前崎灯台下周辺の再整備があります。市のシンボルでもある御前崎灯台の周辺は、大型のホテルが撤退

した後、閑散とし、かつて観光で賑わっていた頃とは随分変わってしまいました。このようなことから、御前崎灯台周辺の遊歩道や駐車場を市が整備し、併せて（一社）御前崎スマイルプロジェクトが（公財）日本財団の助成を受けて「渚の交番」を建設することとなりました。

「渚の交番」は、（一社）御前崎スマイルプロジェクトが展開する海岸や地域のパトロール、マリンスポーツを通じた青少年の健全育成、海辺の環境保護活動、観光客に対する御前崎の魅力発信の拠点となる場所です。

農業振興拠点施設と御前崎灯台下周辺の整備は、市制施行10周年記念事業と絡めながら実施していく予定です。

一方、当市の基幹産業である農業が元気であれば地域がもっと元気になるのですが、原油の高騰や価格の低迷などにより、経営の厳しい状況が続いています。このような中、静岡県では、全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた県内の商品を認定する「しずおか食セレクション」を実施しており、昨年度「御前崎つゆひかり」「遠州夢咲牛」「御前崎生かつお」が認定されました。

「御前崎つゆひかり」は、早生品種のお茶で、平成15年度から市の補助金などにより、御前崎市茶業振興協議会が中心となり普及促進

を図りました。

「遠州夢咲牛」は、内閣総理大臣賞や3年連続で農林水産大臣賞を受賞したことがある、黒毛和種の和牛です。生産方法の改良により、程よく霜降りになった肉は、食べた瞬間口の中でとろけるくらい柔らかく、大変おいしいお肉です。

「御前崎生かつお」は、近海で一本釣りし、御前崎港に水揚げされる生のカツオのことです。市内でのカツオの食べ方は「たたき」など様々ありますが、主に新鮮なままの刺身で食べられています。

来年度は市制施行10周年の節目の年です。今までの10年間を振り返るとともに、今後に向け、市民は住んで良かったと思い、他地域からは御前崎市に住んでみたいと思えるようなビジョンを掲げ、まちづくりに邁進していきたいと思えます。

今後、様々な「市制施行10周年記念事業」を実施します。私も積極的にトップセールスを展開して市の魅力を売り込みますので、皆さまも「海と緑と笑顔がきらり輝く」御前崎市へぜひお越しください。（談）



農業振興拠点施設
(完成予想図)

御前崎つゆひかり



御前崎灯台

御前崎生かつお



「協働」と「連携」によるまちづくり⑥

和歌山県北山村の地域活性化事業

小さな「全国唯一の飛び地の村」のユニークな地域づくり

和歌山県北山村は全国唯一の「飛び地の村」。また、人口479人(平成25年6月1日現在)で全国で最も小さな村のひとつである。



【写真】
1 北山村の「夏の風物詩」観光筏下り
2 北山村特産の「じゃばら」
3 おくとり温泉内のコンビニで販売の各種じゃばら商品

村づくりの基本理念の4つの柱

紀伊半島の南部に位置する北山村は南は三重県、北は奈良県に接する東西約20km、南北約8kmの小さな村で面積の約98%が森林である。

同村は和歌山県でありながら、和歌山県内のだの市町村とも隣接しない全国唯一の「飛び地の村」として知られている。

また、良質の杉に恵まれたこの地域は、約600年前の室町時代から林業と、切り出された木材を筏に組んで熊野川を下り、集散地の新宮まで運ぶ「筏師の村」としてもよく知られる。

しかし、昭和30年代に入り、電源開発に伴うダム建設や道路整備による木材のトラック輸送への転換、輸入材増加などにより、林業を中心と

する住民の生活基盤は崩れ、同時に村の人口も減少していき、全国で最も小さな村のひとつとなってしまう。そのため、村は、新たな産業政策による村づくりを目指すこととなった。



■北山村情報■

【人口】479人(平成25年6月1日現在)
【面積】48.21平方キロメートル
【発電所データ】電源開発(株)七色発電所
(ダム水路式:出力8万2千kW)
【本特集問合せ先】北山村 総務課 ☎0735-49-2331
【URL】www.vill.kitayama.wakayama.jp

(左) じゃばら調味料セット
(右) 北山村内の村営じゃばら園



北山村長 奥田 貢さん

これらの「じゃばら」の加工販売などだ。これらは「株式会社」という「民」の発想で、村の直営事業として推進

その基本理念となつたのは、「地域資源を活かした自然環境との調和」、「地域住民参画型自治の推進」、「ハード事業を支えるICTの活用」、「教育環境の充実と子育て支援」という4つの柱だ。これらの柱は、村が「北山村株式会社」として行う観光事業や特産品開発事業にも反映されている。

すなわち、昔ながらの筏流しを観光筏下りとして復活、森林資源を活用するバイオマスボイラーによる温浴施設を整備、村の特産品である

伝統技術の復活・継承と観光事業の融合としての観光筏下り

「北山村の夏の風物詩」といわれる観光筏下り。観光客は全長約30mにおよぶ筏にライフジャケットを身につけて乗り込み、両脇の手摺りを掴んで、筏師による櫂さばきを頼りに、激流の中、水しぶきをあげて岩の間をくぐり抜けていく。美しい大自然とスリルを同時体験できるとあって、「北山村観光の目玉」として人気を呼んでいる。

「北山村の夏の風物詩」といわれる観光筏下り。観光客は全長約30mにおよぶ筏にライフジャケットを身につけて乗り込み、両脇の手摺りを掴んで、筏師による櫂さばきを頼りに、激流の中、水しぶきをあげて岩の間をくぐり抜けていく。美しい大自然とスリルを同時体験できるとあって、「北山村観光の目玉」として人気を呼んでいる。

前述のように、筏流しは北山村に約600年にわたって伝わる伝統技術だ。その伝統技術を観光事業として今に復活させているわけだが、その道のりは平坦なものではなかった。久保岡博さん（80歳）は中学校卒業後、筏師として10年間仕事をした。杉やヒノキの丸太約300本を、長さ50mの筏に組んで新宮まで運んでいた。



久保岡 博さん

「筏師のふるさと」として、北山村に伝わってきた伝統を何とかできないかという村長の熱い想いもあり、

た。そのため、村の若者にとつて、筏師は憧れの仕事であった。その後、当時の村長に誘われ、昭和38年、31歳の時に北山村役場に入り、平成7年に助役を最後に退職するまで村づくりにかかわった。



筏師の櫂さばき

観光筏下りの事業がスタートした。

しかし、その取り組みはなかなか思うように進まなかった。最初の難関は「筏に観光客を乗せるのは危険」という国の中止勧告。



観光筏下りの全景

久保岡さんは、これ乗り越えるために当時の和歌山県知事を巻き込み、観光筏を「小型船舶」とする筏の設計、ダム放水量に関する関係者との調整など、様々な調整を行った。そんな久保岡さんたちの努力が実って、観光筏運航の承認手続がスムーズに進み、昭和54年に村直営の観光事業として筏下りが復活した。

観光筏下り運航開始当初は60名ほどいた元筏師が運航を担って、順調

～和歌山県北山村の地域活性化事業～



中山 敏男 さん



山本 正幸 さん



所 和弘 さん

に事業が進む。ところが、筏師の高齢化問題が浮上してくる。そこで始めたのが「観光筏師後継者養成事業」だった。これは、全国からIターン、Uターンの人々を募集し、応募者に対して徹底的に筏流しの技術を教えるというものである。久保岡さん自身も、平成10年より2年間、養成事業に従事した。その間、常に「人の命を預かるのだから、いいかげんな気持ちで仕事に取り組むな」と後継者に言い続けながら筏流しの技術を教えた。

その久保岡さんから観光筏後継者育成事業1期生として、筏流しについて徹底的に教え込まれたのが、現在、筏師養成者の中山敏男さん。

中山さんは近隣の紀和町（現熊野市）出身で、郵便局員をしていたが、平成10年から始まった筏師後継者育成事業に応募して、筏師として修業を始めた。最初は筏作りと筏運航技術の取得から始まり、その後、観光筏運航に従事した後、筏師育成にかかわって現在3年目だ。中山さんによると、北山村の筏下りは櫂を使うのが特徴で、最初にダム湖で1ヶ月間練習をし、その後、川に入っ

た。練習となる。練習のほとんどは、櫂の使い方だという。「先乗り・舵取り・後乗り」の3名で運航を行う。

「15年筏師としての経験を積んできたが、水量はダムで一定に保たれているものの、風の状況等で運航条件が刻々と変化するため、今でも勉強の毎日」と中山さんは言う。

現在、筏師のリーダー役として、観光筏運航を務めるのが、山本正幸さん。山本さんは北山村出身のUターン者で、大阪でサラリーマン生活を送っていたが、以前より、将来は自然に恵まれたところで生活したいと考えていたこともあり、観光筏師公募に応募し、平成11年に筏師になり、現在15年目。

岐阜県出身の27歳で、祖母が北山村に住んでいたという縁で筏師になつて、現在3年目という所和弘さんにも話を聞いた。最初はこの仕事の辛さが身にしてみたが、今では風の状態などで変わる微妙な運航技術なども少し解るようになってきたという。

今や北山村観光の目玉となつている観光筏下りだが、使われる観光筏は、かつて筏流しに使われていた筏と長さ・幅がほぼ同じで、20名程度

の乗船が可能。激流の中での運航のため、3年おきぐらいに製作更新をしている。

筏師は全員で13名（そのうち、Iターン4名、Uターン1名）。年代的には30代後半が多い。夏の時期は、筏師をやりながら、じゃばら農園や加工工場での仕事や林業に従事している。観光筏下りの運航シーズンは終わる秋以降は、就業場所が激減するので、今以上の筏師の雇用は望めない。それが今後の課題でもある。観光筏下りを楽しむ乗船客は関西

地域資源活用 of 観光拠点
「おくところ公園」

見渡す限り緑の山々に囲まれ、ダム湖沿いに位置する「おくところ公園」は北山村観光の拠点。敷地内に観光センター（道の駅「おくところ」）、コテージ、オートキャンプ場、テニスコート、バンガローなど各種施設が整っている。その中心施設が、平成23年5月にリニューアルオープンした「おくところ温泉やまのやど」だ。

ここは村の溪谷美を一望できる露天風呂や和洋折衷の広々とした客室、地元の産物を可能な限り利用した料理が味わえるレストラン、お土産品や日用品・食料品を取り揃えたコンビニエンスストアなどからなる。

エリアからが中心であるが、近年、名古屋エリアからも増加している。しかし、運航シーズン中の乗船客数は平成10～12年、約1万人をピークとしてここ数年は、不況や昨年の台風12号の影響で減少気味である。また、ピークの夏休み時期とそれ以外の時期の乗船客数の差が大きい。

観光筏のPR等、この差を少なくする取り組みを行うことによつて、現状の筏師の数でも、フル体制での運航で過去最多レベルの乗船客数は可能だと山本さんは語る。

この「おくところ温泉やまのやど」では、様々な方法で集客施策を行っている。現在の利用がレス



北山村観光センター（道の駅「おくところ」）



おくところ温泉内にあるコンビニエンスストア「じゃばら屋」



トランと温泉の日帰り利用に集中している。季節に応じた宿泊プラン（宿泊・温泉・宴会利用）等の商品も開発している。

また、このおくとろ温泉の特色のひとつとして挙げられるのが、地域資源としての森林資源の活用。間伐材を主に、筏の廃材などを燃料として活用するバイオマスボイラーの採用だ。

村特産のじゃばらを インターネットを活用して6次産業化

「じゃばら」とは柚子やすだちの仲間の柑橘系の果実で、名前の由来は「邪気を払う」から来ている。村では正月料理に欠かすことのできない縁起物の果実だったが、昭和47年に国内はもとより、世界に類のない新品種であることが判明した。昭和52年に農業種苗法による品種登録を出願し、昭和54年に種苗名称登録許

「バイオマスボイラーの採用を決めたきっかけは元々、おくとろ温泉の燃焼用の重油ボイラーが、温泉のリニューアル時期に併せて更新時期に来ていたことです。ボイラー導入にあたっては様々な方法を検討しましたが、搬出間伐材や更新された筏の廃材を利用できるということで、新燃料タイプのボイラーを導入しました」と、北山村観光産業課長の田岡富泰さんは語る。



北山村
観光産業課長 田岡 富泰 さん

じゃばら事業は北山村のお荷物的存在となり、事業廃止も検討された。「飛び地の村」からくる不便さ、販売力の低さといった問題を解決する最後のチャンスとして取り組んだのが、じゃばらのインターネット通販であった。

当時の状況について北山村観光産業課の池上輝幸さんが語る。

「2年頑張っても駄目なら、じゃばらを諦める。でも、村に国道が通っていないので、最後の手段としてインターネット活用しかないということで、インターネットの総合ショッピングモールの出店を決めました」

インターネット通販を始めてまもなくの平成13年2月、「花粉症に効く」という顧客からの情報を手がかりに、インターネットを通じてモニター調査を実施したところ、半数近い人から「効果がある」という回答があった。

当時は珍しかったインターネット総合ショッピングモールへの自治体の出店や、モニター調査の結果をマスクミが取り上げたこともあり、じゃばらの売り上げは飛躍的に伸び、その後も平成17年度まで順調に伸びた。しかし、翌平成18年に初めて売り上げがダウンした。

その打開策として出てきたのが、平成19年6月に開設した地域密着型ブログポータルサイト「村ぶろ」である。池上さんは語る。

「『村ぶろ』を立ち上げた主な理由は、じゃばらのファンにじゃばらの評判を書いて欲しかったこと、北山村とじゃばらファンの双方のコミュニケーションを確立したかったことです。実際に村ぶろを立ち上げた、じゃばらは北山村にしかないものという事を再認識



北山村
観光産業課 池上 輝幸 さん



地域密着ブログ
ポータルサイト
「村ぶろ」のトップページ

～和歌山県北山村の地域活性化事業～



じゃばらドリンクセット

小さな村ならではの 村づくりの今後と課題

北山村では前述のとおり、地域資源を活用した産業振興策を推し進めてきたが、最大の課題は「人口減少」だ。

「かつて人口2,000人を超えていた北山村も現在は500人。さすがに適切な規模からいうと少ない気がする」と奥田村長は言う。

これに対する対策として、公営住宅整備等の各種若者定住策や教育環境の整備等が挙げられる。

なかでも、村が「究極の過疎対策」と力を入れているのが教育施策。その代表例が英語教育・海外研修旅行である。

英語教育は「これからは国際化の

このようにインターネットを活用したじゃばら事業は、6次産業化(じゃばら生産・加工・販売)という形で成長してきた。

しかし、じゃばらの木の老木化に伴う生産量の落ち込みという課題も出てきた。まず、対策として村は近年、苗木を植えて、じゃばらの木を定期的に更新している。その一方で、「村ぶろ」のSNS(ソーシャルネットワークキングサービス)への対応が課題だ。現在、民間の知恵を借りながら、検討中である。



公営住宅



北山村
総務課長 藪本 幸一さん

時代。まずは英語から」ということで4年前からスタートした。ALT(外国語指導助手)の外国人教師を雇い、保育所・小学校から週1、2回の別枠英語授業を行っている。また、語学研修を兼ねて、中学2・3年生全員が1〜2週間の予定で海外研修旅行を行っている。

公営住宅についても、全世帯の1割に当たる30数戸を整備している。

また、若者定住施策のポイントとなるのは雇用の場の確保だが、これについて北山村総務課長の藪本幸一さんは「就業の場が温泉とその周辺、行政、郵便局と限られているので、現在は官(村)が直営でやっている。例えば、ここ数年、役場で数名ずつ新入職員を入れたり、生産・加工・販売を一貫でやっているじゃばら事業も、本来なら民間がやるべきものであるが、村が特別予算を組んでや



英語の授業を行うALT(外国語指導助手)

っている」と話す。

今後の村づくりの課題と方向性について奥田村長は語る。

「人口を増やしたいという理想に向けていろいろやっているが、現実とのギャップがあり、苦労している。しかし、小さな村だからこそ、規模だからできることはたくさんある。例えば、役場・議会も小規模なので意志決定が早く、予算も村民のために有効に使うことができる。もちろん、小規模ゆえのデメリットもあると思うが、大事なことはいろいろなことを先々と心配するよりも、その時点でこれがベストと考えたことを信じて前に進むこと」。

「全国唯一の飛び地」の小さな村の積極的な村づくりはこれからも注目される。

地域のあらゆるものが「まなざし」の対象に

大幅な人口減少と高齢化により、20世紀末ごろから「観光振興は地域活性化の起爆剤」として、様々な活動が活発になってきている。

その背景には、地域における産業構造の変化や定住人口の減少などの「負」の課題を、観光産業の創出で解決するという考え方があった。大型レジャー施設の誘致や開発、大量の観光客に対応する観光コンテンツの提起など、ハード、ソフト両面で、こうした「マスツーリズム」は一定の経済効果を生み出すこととなった。

しかし、一方で「環境破壊」、「文化の真正性の喪失」といった様々な課題を惹起することとなり、必ずしも「経済の域内循環」や「訪問者の持続的な獲得」には至らなかった。

つまり、地域振興における「持続性」というものが大きな課題として浮かび上がってきたのである。

その意味では、「マスツーリズム」は地域振興という観点からは、期待していたような有効性を持たなかったといえる。

そうした中、「そもそも観光とは何か」という議論が沸き起こり「オルタナティブ・ツーリズム(もう一つの観光)」あるいは「ニュー・ツーリズム」といったものが次々と提起されて、地域振興における観光の役割をもう一度見直してみようというのが、昨今の傾向である。

その契機となったのが、イギリスの社会学者J・アーリの言う「観光のまなざし」という概念だ。『観光のまなざし』とは『日常から離れた異なる景色、風景、町並み』に対する『視線』であり、「それは社会的なものとして形成される」というものだ。社会経済的観点から見れば、観光とはホスト

側、ゲスト側を問わず、その「まなざし」を組織化・具体化する行為ともいえる。

すなわち、ホスト側にとっては自らの地域を見つめ直し、地域内の特徴を自覚して、資源化してゆくこと、ゲスト側にとっても、訪れた地域で受ける様々な「刺激」によって自らや、自らの住む地域を見つめ直すということでもある。

地域の景観、産業、産品、歴史、文化、生活など、あらゆるものが、「観光のまなざし」の対象になるのだ。

「ヒト・モノ・情報」を積極的に交換する作業

そうした「まなざしの組織化」として、有力な手法が観光に関連した「交流」というものだ。

本来、「旅」は地点間の移動なので、必然的に「人の人との交わり」は生まれるのだが、さらに積極的にこれを行い、様々な目的で地域を訪れる人々を「交流人口」と捉えていこうとする。ここでいう「交流」とは、地域の人々と来訪者が、様々な内容やレベルで「ヒト・モノ・情報」を、「体験・学習」などの多様なコンテンツを通して、積極的に交換とするという意味に他ならない。

つまり、こうした「観光コンテンツ」を用意して、それを「交流」によって、相互に刺激しあい、新たな地域文化の形成に繋げ、地域を活性化させようとするものである。

それは、訪問者

の側にとっても、地域の人々との「交流」を通じて、自らのライフスタイルを見詰め合う絶好の機会となる。最近では「対流」という言葉で、その双方で行き合う新しいライフスタイルの実現を目指す動きもある。

観光という言葉は、易経の「観国之光 利用賓干王」という言葉に由来するといわれる。「国之光」即ち「美しく輝く地域」を「観る」あるいは「観せる」ことでもある。

あえて言えば、「光り輝かかせていく地域の様々な取り組み」それ自体が、観光の取り組みであるともいえる。なぜならそれは地域に住む人々が「住んでいる地域を誇りに思えるような魅力的な地域をつくる」ことであり、観光の取り組みもまさにこの一点にある。

少なくとも、観光によるまちづくりでは、かつての「マスツーリズム」の時代のような、急激な経済効果を期待することは困難になってきている。経済効果は少なくとも、多様なコンテンツを提起しながら、息の長い「持続的な活動」が必要となっている。

観光によるまちづくりのイメージ



平成25年のイベントカレンダー

電源地域 情報 ひろば

「電源地域情報ひろば」は各市町村で開催されるイベントや伝統的なお祭りなどの情報をまとめて掲載するコーナーです。今回は10～12月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載にあたり費用が発生することはありません。(誌面の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います)

■地域振興部 振興業務課 電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305 E-mail: furusato@dengen.or.jp

10月	ハロウィンフェスタ IN MISAWA 2013 (青森県三沢市) ★
	いしのまき大漁まつり(宮城県石巻市) ★
	→ 国際ご当地グルメグランプリ2013 inかしわざき(新潟県柏崎市)
	つるが観光物産フェア2013(福井県敦賀市) →
	第26回美浜町民レガッタ(福井県美浜町) →
	第11回松江神在月だんどんウォーク(島根県松江市) →
11月	★ 辻八幡の神殿入(広島県三次市)
	★ 風車まつり(愛媛県伊方町)
	吟詠「泊天草洋」全国大会(熊本県苓北町) ★
12月	第8回うるま祭り(沖縄県うるま市) →
	これでか! 太鼓(石川県志賀町) ★
	→ 鍋島藩窯秋まつり(佐賀県伊万里市)
12月	Hitachi Starlight Illumination 2013(茨城県日立市)
	トナカイホワイトフェスタ2013 (北海道幌延町) ★
	★ 瑞浪バサラカーニバル(岐阜県瑞浪市)
	Hitachi Starlight Illumination 2013(茨城県日立市)

いしのまき 石巻市

宮城県

水産都市・石巻の元気を発信する ～いしのまき大漁まつり

全国有数の魚の水揚げ地である水産都市・石巻ならではの新鮮な魚介類や水産



来場者の掛け声がこだまする

加工品が、奉仕価格で販売されます。

買受人気を味わうことのできる大好評の「鮮魚競り」では、市民たちが威勢のいい掛け声とともに魚を競り落とします。

他にもローカルヒーロー「シージェッター海斗」ショーやサンバなどが催され、ご家族で楽しめるイベントとなっております。

【開催日】10月20日(日)
【開催場所】サン・ファン・パウティスタパーク
【問合せ先】いしのまき大漁まつり実行委員会
☎0225-95-1111
【URL】www.city.ishinomaki.lg.jp/

みさわ 三沢市

青森県

国際色豊かな仮装パレード ～ハロウィンフェスタ IN MISAWA 2013

米軍基地のまち三沢市ならではの全国的にも珍しい国際色豊かな「日米ハロ



多彩な衣装に身を包んでパレード

ウィン仮装パレード&コンテスト」では、思い思いの格好に扮した参加者が商店街を埋め尽くし、「ハッピーハロウィン!」「ハッピーミサワ!」を合言葉にパレードします。

当日参加も可能で、豪華賞品も用意され、子どもたちにはお店からお菓子のプレゼントがあります。

【開催日】10月19日(土)
【開催場所】アーケード商店街
【問合せ先】ハロウィンフェスタ IN MISAWA 2013 実行委員会 ☎0176-53-2175
【URL】www.misawa.or.jp/

ほろのべちよう 幌延町

北海道

銀世界の中、トナカイと触れ合える ～トナカイホワイトフェスタ2013

今年度もトナカイ観光牧場で銀世界の中、トナカイと触れ合える「トナカイ



サンタとトナカイソリに乗る子供

ホワイトフェスタ」を開催します。トナカイソリ無料運行、ミニゲーム、花火大会や子供たちへのサンタからのクリスマスプレゼント等があります。また、手打ちそば愛好会の方々による実演・試食会、ホットミルクや乳製品の無料配布をしていただくなど、子供たちと大人が一緒にひと足早いクリスマスを過ごす事ができます。

【開催日】12月15日(日)
【開催場所】トナカイ観光牧場
【問合せ先】幌延町 経済課 産業グループ 商工観光担当 ☎01632-5-1116

町内外の太鼓団体によるイベント
～これでもか！太鼓

志賀町には、古い伝統をもつ太鼓の芸や音律が多く残されています。「太鼓



会場に響き渡る太鼓の響き

ができれば本物の男として認められる」ような地域だと言われています。「大関」や「横綱」などといった技術レベルを設けて、競い合っているように、太鼓が大変盛んな土地柄です。1年を通じて町内の様々な地域で太鼓のイベントが開かれています。そうした志賀町の太鼓団体12チームと、町外から招いた太鼓団体による太鼓イベントで勇壮な音色が会場に響き渡ります。

【開催日】11月17日(日)

【開催場所】能登ロイヤルホテル

【問合せ先】志賀の太鼓連絡協議会

☎0767-32-3484

新潟と世界のうまさを競う
～国際で当地グルメグランプリ2013 inかしわざき

新潟をはじめ全国、海外のご当地グルメを一堂に集め、新潟の食材と国内



うまさを求めて行列ができる

外の料理とのコラボレーションを図ることによって、食材の宝庫である新潟から食の魅力を強力に発信するとともに、食文化の交流を進めるイベントです。

お客様の投票でグランプリを決めるこのイベント。開催地柏崎市の「鯛茶漬け」は、今回、グランプリには参加しませんが、食べ比べコーナーを設置し、数種類の鯛茶漬けをお楽しみいただけます。

【開催日】10月5日(土)・6日(日)

【開催場所】ぴっから通り

【問合せ先】国際で当地グルメグランプリ柏崎実行委員会 ☎0257-22-3163

【URL】www.kokusai-gotouchi.com/

冬の夜をロマンチックに再現する
ヒタチスターライトイルミネーション
～Hitachi Starlight Illumination 2013

日立シビックセンター新都市広場から日立駅前まで続く10万球のイルミネー



色鮮やかなイルミネーション

ションは必見。点灯期間中は、キャンドルやシャボン玉などを用いた様々なイベントも開催。家族連れからカップルまで、幅広く楽しむことができます。

また、期間中に使用する電力はバイオマス発電によるグリーン電力を使用しています。

【開催日】11月23日(土・祝)～12月25日(水)

【開催場所】日立シビックセンター新都市広場

【問合せ先】公益財団法人日立市科学文化情報財団 ☎0294-24-7711

【URL】www.civic.jp

全国から250以上のチームが参加
～瑞浪バサラカーニバル

昨年は、全国各地から250を超えるチーム、8,000人以上の踊り子が集まり、華麗な踊りを披露しました。



街を練り歩く踊り子たち

踊りの規模も年々拡大し、中部地区最大の年末の踊りイベントとして注目されるようになりました。

また、会場では地元産豚肉を使った料理コンテスト「瑞浪ポーノポークグランプリ」が今回初めて開催されます。他にもJR瑞浪駅前では市民参加型の「うまいもの市」や地元特産品を提供する「おかみさん横丁」などのテント村が設けられ、力強い踊りとグルメで、瑞浪の冬を熱く盛り上げます。

【開催日】12月15日(日) 【開催場所】JR瑞浪駅周辺

【問合せ先】瑞浪市商店街連合会

☎0572-67-2623(みずなみ駅前ふれあい館)

気軽に楽しめるボート大会
～第26回美浜町民レガッタ

ボートは、地元の中学校の部活動があるなど、町の代表的なスポーツです。そのボートを町内の誰にでも気軽に楽しんでもらい、町民が交流を深めながら水に親しむ場を設けようと開催されているボート大会です。



湖上で熱戦が繰り広げられる

様々な種目が設けられ、優勝したクルーには全国市町村交流レガッタの参加資格(一部の種目を除く)が与えられます。「交流の部」は、町内在住・在勤者以外の方も参加できます。(募集期間は終了)

【開催日】10月19日(土)・20日(日)
【開催場所】福井県立久々子湖ボートコース
【問合せ先】美浜町生涯学習課スポーツ振興室 ☎0770-32-6709

【URL】www.town.mihama.fukui.jp

全国各地の自慢の特産品が揃う
～つるが観光物産フェア2013

敦賀市とゆかりのある全国の都市から新鮮な味覚や伝統に育まれた特産品が勢揃いする若狭



全国のおいしい味覚が集まる会場

路最大規模の一大フェアです。今回は昨年、中池見湿地がラムサール条約登録湿地となったことを記念して、全国の登録地の紹介やご当地グルメも大集合します。

ステージ上では、誰でも参加できる鮮魚セリ市や出展市町のPRステージなどが楽しめます。また、敦賀ふぐをふんだんに盛り込んだ敦賀ふぐ鍋味覚体験やちくわ作り体験など、見て楽しむだけでなく、体験などにも参加できる観光物産フェアです。

【開催日】10月26日(土)・27日(日)

【開催場所】きらめきみなと館 他

【問合せ先】つるが観光物産フェア開催実行委員会事務局(敦賀市観光振興課) ☎0770-22-8128

【URL】www.turuga.org/matsuri/turugakannkou.html

い か た ち ょ う
伊方町 愛媛県

風車を望み秋風を感じる
～風車まつり

伊方町は、数多くの風車が立ち並ぶ風車のまちです。



佐田岬半島に立ち並ぶ風車

まつり

は、風車を間近に見ることができる「瀬戸アグリトピア」で開催され、風力発電の模型展示やエネルギー科学教室が開かれる「風の体験広場」、町内の各種団体や企業が出店する特産品・バザーコーナー、農園で行われる芋掘り体験と重さ当てクイズ、キャラクターショーなどの催し物があり、子供から大人まで楽しめます。

【開催日】10月5日(土)
【開催場所】瀬戸アグリトピア
【問合せ先】伊方町 産業振興課 商工振興室
☎0894-38-2657
【URL】www.town.ikata.ehime.jp

み よ し
三次市 広島県

幻想的な秋の伝統行事
～辻八幡の神殿入

200年以上の歴史をもつ神迎えの行事。21時の花火を合図に辻地区の氏子が



光の帯となって参道を流れる灯籠

いっせいに灯籠を付けた竹笹や木杵を持って集合します。定刻になると神主を先頭に太鼓や鐘を打ち鳴らし、笛を吹いて神社へ参拝します。

灯籠が光の帯となって参道を流れる光景は幻想的で、まさに「光の祭典」です。天明年間(1781年～1789年)に飢饉のため、困窮した三谿郡内38ヶ村の農民が、八幡神社に奉納を祈願し、神頼みの一念で始まったともいわれ、県指定無形民俗文化財となっています。

【開催日】10月12日(土)
【開催場所】三次市吉舎町辻
【問合せ先】三次市吉舎支所 ☎0824-43-3112

ま つ え
松江市 島根県

神々が集う神話のふるさとを歩く
～第11回松江神在月だんだんウォーク

出雲では10月を縁起の良い「神在月」と呼びます。



松江の秋と歴史を感じながら歩く

26日は「松江開府のみち」「風土記のみち」「黄泉比良坂のみち」と名付けられた10km、20km、34kmの風土記コースが、27日は「まちあるきのみち」「宍道湖のみち」「日本海のみち」と名付けられた5km、16km、30kmの神在月コースが用意され、全国各地から訪れたウォーカーたちが、歴史に彩られた松江のまちを歩きます。

【開催日】10月26日(土)・27日(日)
【開催場所】松江城山公園(二の丸)他
【問合せ先】神在月ツーデーウォーク実行委員会
☎0852-60-5206

うるま市 沖縄県

地域の伝統芸能やライブで盛り上げる
～第8回うるま祭り

平成17年の合併以来、市民意識の高揚と市民相互の親睦と融和を深めると



盛り上がる夜のステージ

ともに市内各種団体、機関の連帯と協調を密にし、調和のとれた“まちづくり”に寄与することを目的として開催されます。地域の伝統芸能や、県内で活躍するアーティストを中心としたライブやコンサート、「闘牛大会」など、バラエティーに富んだメニューが繰り広げられます。

【開催日】10月19日(土)・20日(日)
【開催場所】うるま市具志川総合グラウンド
【問合せ先】うるま祭り実行委員会
(うるま市役所商工観光課内)
☎098-965-5634

れい ほ く ち ょ う
苓北町 熊本県

頼山陽の名吟に親しむ
～吟詠「泊天草洋」全国大会

日本外史の著者として知られる頼山陽は、文政元年(1818年)、苓北町富岡



自慢のどを披露する参加者たち

を訪れ、その時天草灘の展望を「雲か山か呉か越か」で始める名詩「天草洋に泊す」を残しました。昭和7年に詩碑が建てられ、頼山陽公園として親しまれています。大会は、「天草洋に泊す」の吟に限定した独吟、合吟のコンクールで構成されています。

全国の吟詠愛好家の皆さん、多数で参加下さい。

【開催日】10月27日(日)
【開催場所】志岐集会所
【問合せ先】吟詠「泊天草洋」全国大会実行委員会
(苓北町役場 商工観光課)
☎0969-35-1111(内線115)

い ま り
伊万里市 佐賀県

「秘窯の里」で秋を満喫
～鍋島藩窯秋まつり

江戸時代より今なお鍋島藩窯の伝統技術を受け継ぎ「秘窯の里」と呼ばれて



「秘窯の里」大川内山

いる佐賀県伊万里市大川内山で、今年も約30の窯元による「鍋島藩窯秋まつり」を開催いたします。国の史跡指定もされ、山水画のような屏風岩で囲まれた大川内山は、その景観の素晴らしさから一年を通じて多くの観光客の方に訪れて頂いておりますが、秋の大川内山も心地よい風が吹きもっとも散策しやすい季節です。

【開催日】11月1日(金)～5日(火)
【開催場所】伊万里市大川内山地区
【問合せ先】伊万里鍋島焼協同組合
☎0955-23-7293

町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は福井県おおい町の道の駅のオープンや福島県広野町の産直所の再開、新潟県魚沼市の尾瀬魚沼ルート開発、「ふくしま復興祭」などの話題をお届けします。



道の駅

5月にオープン の駅うみんぴあ大飯が

福井県おおい町

おおい町成海に『道の駅うみんぴあ大飯』が5月30日(木)にオープン。町民にとっては待望の物販・交流施設の誕生だ。

『うみんぴあ大飯』は複合レジャースペースとして、国道27号沿いに整備されてきたもので、アミューズメント施設の『こども家族館』『エルガリアおおい』、リゾートホテルの『ホテルうみんぴあ』、『うみんぴあ大飯マリーナ』などが含まれる。

『道の駅うみんぴあ大飯』は、その『うみんぴあ大飯』の一角にあり、若狭湾の景観が満喫できる『道の駅』となっており、福井県の「電源地域

安心と活力のまちづくり交付金事業」を活用して建設された。

敷地面積約5,740平方メートル、延べ床面積約1,240平方メートルの平屋建ての駅舎内は、目の前に広がる若狭湾からの光が燦々と差し込み、おしゃやれで明るい雰囲気包まれている。

魚介類販売コーナーでは、若狭沖で獲れた新鮮な魚介類を提供し、特産品売場では毎朝収穫した野菜に加



え、米、果実、花卉や、手作りのお菓子やパン、特産品なども売られている。

また、おおい町産の果実・野菜などを使ったジェラート工房、新鮮な魚や野菜を使ったメニューを揃えたファーストフードを味わえるコーナーもある。観光案内所では町の観光案内をはじめ、地域情報などを発信している。

6月1日(土)、2日(日)にはオープニングイベントが開催され約8,000

道の駅うみんぴあ大飯

〒919-2107 福井県大飯郡おおい町成海1-1-2

☎0770-77-4600

【URL】michinoeki-ohi.com

【営業時間】9:00~18:00(7・8月は19:00まで)

【休館日】毎月第1・3月曜日および12月31日・1月1日(7・8月は無休)



買物客で賑わう特産品売場

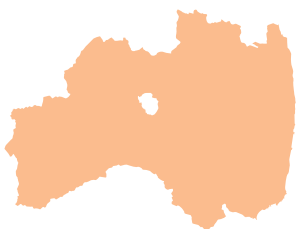


ツダオールスターゲーム2013にあわせて「ふくしま復興祭」を開催

福島県

去る7月21日(日)、22日(月)の2日間にあわせて、いわき市21世紀の森公園で「ふくしま復興祭」が開催された。この催しは公園内の「いわきグリーンスタジアム」で行われた「マツダオールスターゲーム2013第3戦」にあわせた関連イベントとして、日本野球機構が球界全体で東日本大震災の被災地を長期的に支援し盛り上げていこうということで実現した。会場は、「食のオールスターゲーム」ゾーン、「ふくしまの食・

いわきの食」ゾーン、「コミュニティ」ゾーン、「子どもスポー



復興祭セレモニー



再開した農産物直売所

大震災以降、閉鎖していた福島県
広野町の二ツ沼にある農産物直売所
が7月27日
(土)に再オ
ープンした。

この日、約
2年4カ月
ぶりの再開
となる直売
所の店頭に
は、モニタ

農産物直売所、 2年4カ月ぶりに再開

福島県ひろの広野町

リング検査を終
えた広野町産
の新鮮な野菜
が並び、会場は、
町に帰還した住
民で賑った。
町内の有志からなる
広野復興プロジェクト実行委員会も
町内で頑張る農家を応援しようと会
場に駆けつけ、宮崎産地鶏（真空パ
ック）の無料配布や埼玉県三郷市や



「ふくしまの食」・「いわきの食」を楽しむ人たち

いわき市の「ジャンボカジキバーガー」



「食のオールスターゲーム」で
は、全国約50種の郷土料理・ご
当地料理コンテストが行われ、
いわき市の「ジャンボカジキバ
ーガー」がグランプリを獲得した。
また、ステージでは「風とフクミラ
イ」と称した中村雅俊さんなどのラ
イブ、プリンセス天功さんやスパリ
ゾートハワイアンズなどのパフォー
マンスが繰り広げられ、食べて、見
て、聴いてといった盛りだくさんの
楽しいイベントとなった。

浪江町の「なみえ焼きそば」
などをはじめとする福島各
地の製品のほか、被災地支
援を行ってきた全国各地の
自治体や団体の産品も出展。
「食のオールスターゲーム」で
は、全国約50種の郷土料理・ご
当地料理コンテストが行われ、
いわき市の「ジャンボカジキバ
ーガー」がグランプリを獲得した。
また、ステージでは「風とフクミラ
イ」と称した中村雅俊さんなどのラ
イブ、プリンセス天功さんやスパリ
ゾートハワイアンズなどのパフォー
マンスが繰り広げられ、食べて、見
て、聴いてといった盛りだくさんの
楽しいイベントとなった。

官民挙げての尾瀬魚沼ルート開発を 通じた地域活性化

新潟県しんあめま魚沼市

岐阜市から取り寄せた野菜を販売し、
会場を盛り上げた。
広野町では、2011年9月に緊
急避難準備区域が解除されたが、帰

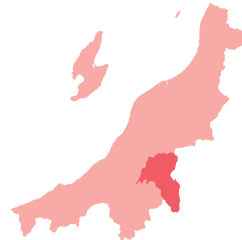
還した住民は2割にとどまってお
り、この二ツ沼直売所の再開によ
って、農業や町の再生につながることを期
待している。

福島・新潟・群馬3県にまたがり
広がる尾瀬は、春から秋まで自然を
楽しむ多くの観光登山客で賑わう。
陸路で入る福島・群馬ルートと異
なり、船で奥只見湖を渡り、尾瀬に入
る通称「尾瀬・魚沼（新潟）ルート」
は、尾瀬に入るまで様々な景色を堪
能できるほか、沿線に多くの温泉が
点在する湯之谷温泉郷を抱える。

活動が活発化するなか
平成19年7月の中越沖地
震が発生するも、同年8
月30日の尾瀬国立公園誕生
の契機もあって成果が出て
きている。

しかし、平成16年の中越大震災と
2年続きの大雪で温泉郷への来客数
が年々減少してきた。
そこで、温泉街らしい風情ある街
並みなど、景観の形成や尾瀬への新
潟側玄関口としてのPRを通じて地
域活性化を図るため、湯之谷温泉郷
の各温泉組合を中心に、新潟県魚沼
地域振興局と魚沼市の協力を得て、
平成18年8月に「湯之谷温泉郷・尾瀬
ルート活性化委員会」が結成された。

その後、平成21・22年度には国交
省の「建設業と地域の元気回復助成
事業」も実施。平成23年の新潟・福
島豪雨の風評被害対策や平成24年度
もインバウンド（海外からの誘客）
を推進するために魚沼市・魚沼観光
協会とともに「魚沼JED（ジャパ
ン・エンドレス・ディスカバリー）」
を設立。「魚沼から行く尾瀬」を魚
沼市と協力して行うなど、広範囲の
活動を行っている。



秋の紅葉も楽しめる尾瀬定期船



平成25年度下期 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業(通称、F補助金)の募集を開始します

F補助金は、原子力立地地域における雇用機会の創出と産業振興を図るため、雇用の増加を生む企業に対して、一定期間にわたって、企業の支払った電気料金等に基づき、道府県が給付金を交付する制度です。

当センターでは、道府県からの要請を受けて交付事務・審査事務を行っています。平成25年度下期募集は、平成25年10月に行われる予定です。詳細は、募集時の「応募要領」をご覧ください。「応募要領」はホームページに掲載する予定です。

【お問合せ】総務企画部 立地審査課
 ☎03-6372-7307
 ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/yuchi/yuchi01.html
 eメール: ritti@dengen.or.jp



定期開催型 第1回「産品相談・商談会」を開催しました

電源地域の特産品の開発・改良および販路拡大を目的に、流通関係者をアドバイザーとして招聘し、一対一で具体的なアドバイスを受ける機会を定期的に提供する「産品相談・商談会」を、平成25年7月5日(金)東京都中央区(電源地域振興センター)で開催しました。今年度は第2回(大阪会場)を、10月4日(金)に、第3回(東京会場)を、11月



面談の様子

15日(金)に開催します。現在、第3回の参加募集中です。詳細についてはホームページをご覧ください。

第4回(福岡会場)については、来年の1月下旬〜2月上旬で調整しております。調整がつき次第、募集を行います。多くの皆様の参加をお待ちしております。(参加料:基本¥10,000/3面談・事業者 オプション(追加面談・デザイン相談)¥3,000/面談)

■現地開催型「産品相談・商談会」

市町村や商工団体等の求めに応じ、百貨店等のバイヤーを現地(地元)へ派遣し、参加者の時間的・費用的負担を軽減するとともに、実施後もバイヤーと相談・商談がしやすい関係が継続する現地開催型の産品相談・商談会を

ご案内いたします。特産品を製造・販売する事業者だけではなく、それに係わる地域の関係者を対象とした研修会や、製造のこだわり等をバイヤーに体感いただくための製造現場視察などを組み合わせることも可能です。

■随時開催型「産品相談・商談会」

市町村や各事業者等の求めに応じ、首都圏出張等の機会に合わせて百貨店等のバイヤーとの面談を随時設け、開発・改良のアドバイスや、販路拡大に繋がる商談を行うことができます。(参加料:¥4,000/面談・事業者)

*なお、現地型・随時型につきましては、常時募集をしております。

【申込み・お問合せ】地域振興部 振興業務課
 ☎03-6372-7305
 ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html
 eメール: hanbai@dengen.or.jp



研修のご案内

電源地域振興センターでは、平成2年度から電源地域の皆様を対象とした研修事業を実施し、これまで延べ2万人の皆様にご受講いただいております。

今年度も電源地域のニーズを踏まえ、テーマを設定するなど、引続き電源地域の長期的かつ自立的な振興支援をお手伝いします。

10〜12月の研修につきましては、次ページのとおりとなっておりますので、

本研修事業を皆様の地域のまちづくりにご活用ください。(各研修内容の詳細につきましては、ホームページをご覧ください)

【申込み・お問合せ】地域振興部 振興業務課
 ☎03-6372-7305
 ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/kensyu/index.html
 eメール: jinzai@dengen.or.jp



今号のWebアンケートプレゼント

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良い誌面作りのため、Webアンケートを実施させて頂いており、多くの皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で1名の方に、今号の「わがまち自慢」にご登場いただきました御前崎市の特産品「遠州夢咲牛の和牛(A5ランク) 1kgのすき焼きセット」をプレゼントいたします。

■アンケート回答方法

当センターのホームページ(文末参照)の入力フォーム内のアンケートにご記入



遠州夢咲牛和牛すき焼きセット(イメージ)

■10～12月の研修(予定)

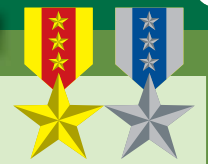
各定員：20名

No.	分野	テーマ	月日	場所	申込メ切	研修ポイント
1	地域産業	地域産業活性化の方策を学ぶ ～地域資源の活用・農商工連携等～	9月30日(月) ～ 10月1日(火)	【東京研修】 電源地域振興センター	9月12日 (木)	地域の強みである地域資源の活用や企業・地域間の新たな連携等、地域産業の再生に向けた行政支援のあり方を学ぶ。
2	協働	多様な主体が地域を創る ～協働によるまちづくり～	10月23日(水) ～ 24日(木)	【東京研修】 電源地域振興センター	10月8日 (火)	活力ある地域づくりに向けて、地域社会を構成する様々な主体が協働していくためのポイントやノウハウを学ぶ。
7	観光	地域ぐるみで進める観光まちづくり ～地域全体でもてなす旅の形へ～	10月28日(月) ～ 30日(水)	【現地研修】 長崎県 小値賀島	10月8日 (火)	魅力ある観光まちづくりを進める先進地を訪れ、視察や関係者との意見交換等を通してその取り組みを学ぶ。
8	海外研修	欧州におけるエネルギー政策 と新エネルギーを活用したまちづくりを学ぶ	11月3日(日) ～ 9日(土)	【海外研修】 フランス、 スウェーデン	9月12日 (木)	新エネルギーを活用した「エネルギー・環境共生」のまちづくりの先進地等を視察し、欧州各国のエネルギー事情や取り組みを学ぶ。
3	企業誘致	企業誘致による地域活性化	11月14日(木) ～ 15日(金)	【東京研修】 科学技術館	10月30日 (水)	企業誘致の推進に向けた産業動向や関連政策、実務啓発、企業誘致事例等について学ぶ。
4	農業	農業で地域を元気に ～地域農業の活性化策を学ぶ～	12月5日(木) ～ 6日(金) ※予定	【東京研修】 電源地域振興センター	11月20日 (水) ※予定	直売所や農家レストランなどの6次産業化による農業者の所得向上策や雇用の確保等、農業で地域が元気になるための各種方策を学ぶ。

のうえ、「送信」ボタンを押して送信してください。
 ※切は平成25年10月31日。当選の発表は発送（平成25年11月下旬予定）をもって代えさせていただきます。

【お問合せ】
 (一財)電源地域振興センター
 電気のふるさと編集室
 ☎03-6372-7305
 ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html

第4回「電気のふるさと」フォトコンテストを実施します!



★賞および景品

- 最優秀賞:1点 旅行券3万円分
- 優秀賞:2点 旅行券1万5千円分

*入選された作品は当センターのホームページ、「電気のふるさと～電源地域ニュース～」その他で紹介する予定です。

★募集内容

テーマ:「ふるさとの魅力」

- 皆様の暮らしを支える大切な電気。そのふるさとを訪れて、その地域を象徴する、四季折々の自然風景、祭事、風物など、ふるさとの魅力が表現され、他の人に「訪れてみたい」と思わせる作品を募集します。
- 撮影対象(電源地域)市町村は、建設準備中・工事中・運転中の発電所等が所在する市町村とその周辺市町村のことです。

*詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/area/>)「電源地域とは」を参照ください。

★応募方法

- 写真と応募用紙の両方を送ってください。
 - ▶カラーまたは白黒プリント、A4サイズとします。
 - ▶必ず規定の応募用紙に必要事項を記載の上ご応募ください。
 - ▶写真プリントは、応募用紙と必ずセットで送ってください。

- お1人様3点までの応募とします。なお、1枚の応募用紙で応募できる写真は1枚です。

★応募資格

日本国内に在住の方に限らせていただきます。

★受付期間

平成25年10月1日～平成26年3月31日(当日消印有効)。必ず郵送で応募してください(メール便不可)。郵送以外では受け付けいたしかねます。

*注意事項他の詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>)をご確認ください。

★送付先・お問合せ先

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町二丁目3番3号(堀留中央ビル7階)

(一財)電源地域振興センター 電気のふるさと編集室

TEL:03-6372-7305(平日10～17時)

FAX:03-6372-7301

E-mail: furusato@den-gen.or.jp

電源地域
振興センター事業

活用例
紹介

地域のスポーツ施設を活用した スポーツコミッション機能の設立支援 かりわ 新潟県刈羽村

とうりんぼ 全景



東京電力㈱柏崎刈羽原子力発電所が立地する新潟県刈羽村。発電所近くの砂丘に昨年10月「農業生産」「加工物販」「飲食」「集客」の4つをコンセプトとした地域共生事業施設『ぴあパークとうりんぼ』がオープンしました。『とうりんぼ』には宿泊施設や日本サッカー協会公認の人工芝サッカー場があり、夜間照明と観客席がついたフルサイズのピッチが2面あります。村内にはこのほかにも総合体育館、屋内プール、野球場、テニスコート、陸上競技場などのスポーツ施設が充実しています。

刈羽村は観光資源が乏しいこともあり、地域資源の活用策や観光振興策をこれまであまり検討してきませんでした。『とう

りんぼ』のオープンを見据えて村の総合計画で観光振興を重点施策の一つに位置付け、平成23年度からその検討を始めました。

そのなかで、刈羽村における観光の現状と今後の可能性を分析・検討するため、当センターの専門家派遣事業を活用し、観光の専門家派遣を要請しました。当センターは、この要請を受けて流通科学大学サービス産業学部の高橋一夫教授たかはしかずお（現在は近畿大学経営学部教授）を刈羽村に派遣しました。

そして、高橋教授とともに村の現状を確認したうえで、充実したスポーツ施設や『とうりんぼ』の宿泊交流施設の利用促進を図るためにも、スポーツイベ



総合体育館内でのイベント

ントの開催や合宿の誘致などを通じて地域経済・社会の活性化やコミュニティの再生を図ることを目的とした組織「スポーツコミッション」を設立することを提言しました。

昨年度は調査事業を受託し、研究会やワークショップを開催するなかで、高橋教授とともにスポーツコミッション機能の担い手機関の選定、事業計画の策定、設立に向けた課題の抽出等を実施しました。

今年度も引き続き調査事業を受託し、来年4月のスポーツコミッションの設立に向けて、対応マニュアルの作成や地域の食材を活用したスポーツ合宿向け食事メニューの開発、人材育成などを支援しています。



源土運動広場野球場



サッカー場での試合光景